

step

1

新生児聴覚検査

生後3日以内



新生児聴覚検査とは？

生まれてすぐの赤ちゃんに対する「きこえの検査」です。おおむね生後3日以内に、出生した医療機関や産院等で行います。

精密検査機関で詳しく調べましょう

検査結果がリファの場合は、産院等を退院後に、できるだけ早く（遅くとも生後3か月までに）精密検査を受けましょう。

▶ 精密検査までに心配ごとがある場合は、区役所へご相談ください。

連絡先は **裏面** をご覧ください。

リファとは？

リファは「専門医による詳しい検査が必要（要再検査）」という意味です。耳がきこえていない（難聴）と判断されたものではありません。

step

2

精密検査～診断

生後1～3か月頃



精密検査とは？

精密検査医療機関で行う聴力検査です。難聴の有無や程度、特徴などの診断ができます。ABR（聴性脳幹反応検査）やASSR（聴性定常反応検査）、BOA（聴性行動反応検査）などの検査があります。

診断後は療育について相談しましょう

補聴器などによる聴覚の支援や、療育を早く行くと、ことばの獲得が良好になることがわかっています。まずは、診断を受けた医療機関へ相談しましょう。

先天性サイトメガロウイルス感染症について

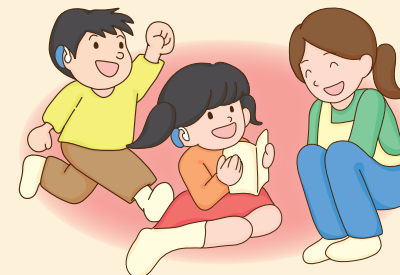
難聴の原因の一つに、先天性サイトメガロウイルス感染があります。新生児聴覚検査で「リファ」の場合は、生後3週間以内に小児科で検査を受けましょう。

step

3

早期療育・教育相談

生後3～6か月頃から



療育とは？

コミュニケーション手段の獲得に必要な支援のことです。お子さんの年齢や発達に合わせた遊びや活動を通して、保護者の方と一緒に、ことばやコミュニケーション力をはぐみます。

いつどこで療育を始めればいいのか？

いつ？

生後3～6か月で補聴器をつけ、療育を開始することが望ましいとされています。

どこで？

お子さんに合った療育・教育機関を見つけるために、複数の機関を見学しましょう。川崎市では、「療育センター」と「聾学校」でご相談をお受けしています。

連絡先は **裏面** をご覧ください。

赤ちゃんとお話し、遊ぶことがとても大切です。ご家庭でも「きこえのチェックリスト」を参考に、きこえの様子をみてあげ、医療機関や療育機関と共有しましょう。

